

PRESS RELEASE



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

報道機関 各位

公立大学法人 宮城大学 大和キャンパス事務局
企画・入試課 広報グループ（担当：小野寺大作）
宮城県黒川郡大和町学苑 1-1 TEL.022-377-8746

「東北っておもしろそう」を研究し、カタチにし、発信する専門組織 東北 6 県研究所(ロッケン)発足！



東北 6 県 研 究 所

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）の地域事業会社である株式会社東北博報堂（本社：宮城県仙台市、代表取締役社長：香中峰秋）は、東北の未来を創り出していくため、東北で起きているさまざまな事象から「東北って、おもしろそう」を抽出し、研究・開発・発信する“シンク&アクトタンク”「東北 6 県研究所（ロッケン）」を設立いたしました。

東北 6 県にはそれぞれ固有の文化があり、ユニークな行動様式や習慣、世界に誇る技やデザイン、自然風土に育まれた豊かな人間性など、多様性と魅力にあふれています。

「東北 6 県研究所（以下、ロッケン）」は、東北だからこそ生まれるこのさまざまな事象を観察・研究（シンク）し、そこで得られた知見を活かしてモノ・コトの実験、開発（アクト）を行い、社会実装までトータルでプロデュースしていきます。

発足にあたっては、宮城大学事業構想学群高山ゼミと密接に連携し、多岐にわたる研究を行います。この産学連携によって双方の人的・物的・知的資源の交流が活発におこなわれ、地域経済活性化に寄与することを目指すとともに、より深く広い東北研究と理解促進に向け、東北各県の大学とのコラボレーションも随時行ってまいります。

ロッケンが大切にするのは、「東北を、もっと、おもしろがってみる」というマインドです。

常識にとらわれることのないチャレンジングな姿勢で、事象を多角的な視点で捉えなおし、①みつける→②見立てる→③うみだす→④ひろげる、という研究&アクションのプロセスを、「それが、おもしろそうかどうか」を判断基準の最優先に位置づけながら遂行します。

最終的には、生み出されたモノ・コトの情報を、各種イベント、WEB サイト、リリースなどを通して発信し、「東北って、おもしろそう」という国内外の東北への興味関心を拡大してまいります。

※東北 6 県研究所ロッケンは、商標登録出願中です。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

宮城大学事業構想学群 マーケティングゼミ（高山研究室）

TEL: 022-377-8345 email: takayamas@myu.ac.jp

<参考資料>

(1) ロッケン 研究&アクションのプロセス

「それが、おもしろそうかどうか」を判断基準の最優先に置きながら①～④のステップで研究 & アクションを遂行する。

① みつける



「東北ならではの」「東北らしい」
事象、行動、心理、データ等を
日常的に収集・観察する

「おもしろがって」
東北のあらゆる情報を蓄える

「東北ならではの」「東北らしい」事象、行動、心理、データ等を 日常的に収集・観察する

- ・日常的なフィールドワーク
- ・大学生や各県メディアと連携したデスクリサーチ
- ・インタビュー/行動観察 など...

② 見立てる



ストックされた情報を
角度を変えて見て、捉え直して
新たな「可能性」を抽出する

「おもしろがって」
東北の常識を揺さぶってみる

ストックされた情報を角度を変えてみて、 捉えなおして、新たな「可能性」を抽出する

- ・バイアスを崩してみる、裏返してみる
- ・アナロジーで思考してみる
- ・リフレーミングしてみる など...

③ うみだす



新しい「可能性」をもとに
様々なプレイヤーと協働で
モノやコトを開発する

「おもしろがって」
東北の可能性をカタチにする

新しい「可能性」をもとに様々なプレイヤーと協働でモノやコトを開発する

- ・各種プロトタイピングの企画・実施
- ・プロダクト/サービス企画・開発
- ・状況に応じて各種戦略立案等（マーケティング/クリエイティブ 等）
- ・他、各種アイデア考案 など...

④ ひろげる



モノやコトを実装して
東北の人の、それ以外の方の
東北への興味や関心を増幅させる

「おもしろがって」
東北の価値や魅力を拡大する

モノやコトを実装して、東北の人の、それ以外の方の、東北への興味や 関心を増幅させる

- ・アイデア/プロダクト/サービスの実装
- ・「ROKKEN-LAB.COM」による活動発信
- ・各種勉強会・セミナーなどのイベント実施
- ・上記のリリース活動（リリース作成/大手ポータルへの発信） など...

(2) 研究員紹介

◆東北博報堂所属の研究員紹介

<研究所長> 加勇田 亮二 ryoji kayuta

クリエイティブディレクター

秋田県出身。1974 年生まれ。

1997 年よりコピーライターとして岩手県内の自治体・民間企業のキャンペーンやブランディングを手掛ける。2012 年に東北博報堂 MD 戦略局所属となり、現在は東北 6 県をフィールドに、様々な団体や企業のプロモーション・コミュニケーション活動を行っている。

武田 晋 susumu takeda

ビジネスプロデューサー

岩手県出身。1974 年生まれ。

2005 年、盛岡博報堂入社。民間企業ならびに自治体の広報戦略立案・プロモーション活動や復興支援活動業務に携わる。2013 年の統合により、東北博報堂仙台支社に配属。ソーシャルビジネス領域を中心に活動中。

武田 陽介 yosuke takeda

コピーライター/制作ディレクター

博報堂 生活総合研究所 客員研究員

福島県出身。1983 年生まれ。

2006 年、福島博報堂入社。2012 年東北博報堂に転籍。

プランナー兼コピーライターとして、地方自治体、通信、流通、地銀、医療機関など東北各エリアのクライアント業務にてクリエイティブ開発に従事。2013 年～2014 年博報堂ビジネスアーツ出向を経て、現職。

栗原 渉 wataru kurihara

プロデューサー/プランナー

宮城県出身。1992 年生まれ。

2018 年、東北博報堂入社。宮城大学を卒業後、2014 年より東京を拠点に、デジタルを中心とした大手企業のブランディングやサービスデザインを幅広く手掛けている。

◆客員研究員紹介

高山 純人 sumito takayama

宮城大学事業構想学群講師/マーケティングプランナー

宮城県仙台市出身。1982 年生まれ。

2004 年より一貫してマーケティング業務に従事。消費者の情報消費の中心でもあるデジタルを主軸としながら、TVCM も含めた売上に直結するコミュニケーション戦略全体を描く。近年は新規事業開発のコンサルティングを主

戦場とし、事業開発時のマーケティングリサーチから、事業ビジョン策定／プロダクト開発などを行っている。

◆外部アドバイザー紹介

手塚 豊 yutaka tezuka

豊温堂 リサーチャー/マーケティングプランナー

1985 年、博報堂入社

以後マーケティング部門にて多種多様なクライアントの諸戦略立案に従事

2008 年 同 研究開発局へ異動、以後、生活者研究・社会研究・コミュニケーション研究・ブランド研究・応用脳科学研究などに従事。2018 年 独立し、有限会社豊温堂を設立し、代表者となる（所在地：千葉県市川市）

【主な研究実績】

「若者論」再考（若者の新しい消費意識研究）/「楽差社会」研究（定常化社会における新しい価値観研究）/「振り子型社会」研究（ポスト標準モデルの社会研究）/主婦の料理意識と行動の変遷研究/食の変化と社会の再構築に関する研究/「ことばオロジー」（ことばの考現学）研究/インバウンド（「クールジャパンのつくり方」）研究/MROC・予測市場などの共創手法研究/ニューロ クリエイティブ・ニューロ ブランディング 研究

【著書】

気づく仕事（共著/集英社）

なぜ脳は「なんとなく」で買ってしまうのか（共著/ダイヤモンド社）

【論文】

若者論再考（マーケティングジャーナル 124）

■ホームページを公開しています。

<https://rokken-lab.com/>

■株式会社東北博報堂 概要

本社所在地：仙台市青葉区一番町四丁目 1 番 25 号 東二番丁スクエア 12F

代表者：代表取締役社長 香中 峰秋

事業内容：東北エリアを中心とした広告業務

■宮城大学マーケティングゼミ 概要

研究室名：宮城大学事業構想学群 マーケティングゼミ（高山研究室）

担当者：高山 純人 講師

所在地：宮城県黒川郡大和町学苑 1-1 宮城大学大和キャンパス 405 研究室

主な研究内容：新規事業立案におけるマーケティング戦略に関する研究

メール：takayamas@myu.ac.jp